

必要な人たちに

「HIV感染予防情報は届いているのか？」

HIV感染症をはじめとする性感染症の予防メッセージは
さまざまな理由から伝わりにくい。

特にそのリスクが大きい人たちほどその情報やメッセージが
自分の存在やライフスタイルを否定している感覚におちいることも多く、
拒否的な態度を示しやすい。

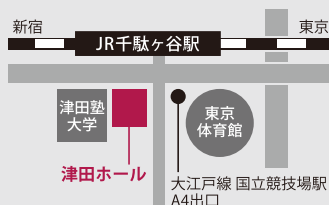
この予防情報の送り手と受け手に横たわる

大きなギャップが予防啓発のむずかしさを生みだしている。

そこで、いくつかの角度からこのギャップを生みだすものについて検討する。

日時 平成22年3月23日(火) 午後6時30分～8時40分(午後6時15分開場)

場所 津田ホール 会議室 T101・102
(東京都渋谷区千駄ヶ谷1-18-24)



プログラム

第1部 講演

「感染症予防と人権」

花井 十伍 (特定非営利活動法人ネットワーク医療と人権<MERS> 理事)

「昼と夜は別の顔/MSMの予防情報アクセス阻害要因」

宮島 謙介 (日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス/臨床心理士)

第2部 パネルディスカッション「若者たちにHIV感染予防情報は届いているのか？」

郭 晃彰 (早稲田大学公認イベント企画サークルqoon 前代表)

稲垣 朝子 (東京都エイズ啓発拠点ふぉー・ていー ピアスタッフ)

高橋 章太 (NPO法人ピアフレンズ HIV/AIDS対策担当)

司会 **長谷川 博史** (日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス 代表)

主催 **財団法人エイズ予防財団**

事務局 **日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス**(担当:高久)

住所:〒160-0014 東京都新宿区内藤町1-7 ホヲトクビル402

TEL:03-5367-8558 URL:<http://www.janpplus.jp> E-mail:info@janpplus.jp

※ 事前の申込および参加費は不要です。また、どなたでもご参加いただけます。

※ このシンポジウムは、平成21年度厚生労働科学研究費エイズ対策研究事業「介入困難群の予防・保健サービスへのアクセスに関する研究班」(研究代表者:服部健司)の研究成果等普及啓発事業として開催されます。